

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4271401780		
法人名	有限会社 くらはら		
事業所名	グループホーム あざみの里		
所在地	長崎県島原市深江町戊3124-3		
自己評価作成日	令和4年12月10日	評価結果市町村受理日	令和5年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和5年1月16日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

事業所の理念を念頭に置き、利用者様一人一人の要望を聞き、状態に合った支援を行っている。利用者様の尊厳を重んじて、家族の様な雰囲気で見守り、安心して、毎日を暮らせる様支援している。ご家族の方が、面会に来やすい雰囲気作りと、地域の方が、いつでも気やすく、立ち寄れる、開かれた施設作りを目指しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームの窓からは有明海や普賢岳を見渡すことができる自然豊かな場所に立地している。本館ユニットには5年前よりリフト浴を設置し、重度化した入居者でもゆっくりと湯船に浸ることができるよう支援しており、入居者は時季に応じて菖蒲湯や柚子湯を愉しまれている。食事の際は陶器の食器を使用し、職員による手作りの料理を入居者及び職員も一緒に摂りながら、入居者それぞれの嚥下状態に合わせて刻み食やトロミ食などを提供し、美味しく食事ができるよう配慮している。有事の際には、ホームは地域の第一避難場所として開放し、年2回は地域清掃へ参加するなど地域の一員として交流を継続している。コロナ禍以前は、ホームの敬老会に家族や地域の方が参加したり、中学生の職場体験の受け入れや、小学生と交流する機会もあったが、現在は自粛しており、管理者はコロナ禍が収束したらこれまでの交流を再開する意向であり、今後の交流再開が待たれるところである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 あざみの里 本館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週、月曜日の申し送り時、理念の唱和を行っている。施設内の数か所に提示し、全職員が常に念頭に置き、共有し、日々、実践につなげている。	理念は事務所やリビングなど職員が目につく場所に掲示しており、月曜日の申し送り時に唱和して職員の意識付けを行っている。職員は日々ゆくりと入居者個々に合わせた声掛けや介助を心がけて実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、回覧板をまわしたり、地域の清掃にも参加している。地域の防災ガイドマップにも第一避難場所にもなり、地域の一員として、交流している。	ホームは自治会に加入し、年2回の地域清掃にも参加している。ホームには回覧板も届き、地域の情報を得ている。有事の際にはホームを地域の第一避難場所として開放し、地域との協力関係を構築している。コロナ禍以前は、ホームの敬老会へ家族や地域の方が参加したり、中学生の職場体験の受け入れや、小学生と交流する機会があった。管理者は、コロナ禍が収束したらこれまでの地域交流を再開する意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナ予防の為、今は施設での行事や催し物が出来ていないが、通常は、近隣の方を招いて、食事会や園芸を楽しんで頂いている。地域の方が、相談にも来やすい様になっている。認知症の人の理解や、有事の際は、第一避難先としても、指定されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回の予定で、開催しているが、新型コロナの状況次第では、文章で利用者様の状態や行事等を報告している場合もある。	2か月毎に運営推進会議を開催されており、構成委員として広域市町村圏組合職員・地域代表・家族・社長・施設長・計画作成担当職員が参加し、入居者の状況や行事などを報告している。コロナ禍により、状況に応じて書面会議に変更し、資料等を各委員へ郵送して報告している。	運営推進会議を書面会議とする場合であっても、情報伝達のみではなく可能な限り双方向性が求められることから、各委員から意見や助言が得やすい資料作りを意識すると共に、各委員から出された意見や助言等、及びホームの回答を議事録に残し、審議した内容や経緯が家族等関係者が閲覧時に分かりやすいよう議事録に記載することが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者とは、日頃から連絡をとり、事業所の実績の報告や、相談事があれば、連絡をとり、協力関係を築く様に取り組んでいる。	広域市町村圏組合の介護保険課職員が運営推進会議に参加しており、ホームの状況を知らせ意見や助言を得ている。介護計画の区分変更に関する質問や、ホームの入・退所の確認や情報を得、必要に応じて相談を重ねながら協力関係を築き取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、職員は外部研修や、今は、施設内での勉強会を開き、禁止の対象となる行為を正しく理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中、玄関の施錠は行っておらず、入居者が離設した場合などは職員が見守りし対応している。見守りセンサーシステムを導入しており、ベッドに取り付けたセンサーから事務所のパソコンへ、入居者の呼吸・脈や体動情報などが表示され、本人の状態把握に活かしている。身体拘束適正化のための指針を整備し、身体拘束委員会を定期的開催している。委員会では職員の実践状況を共有・検討すると共に身体拘束に関する資料を準備して内部研修を行うなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員は、高齢者虐待防止関連法について、学びを深め、事業所内や、また、ご自宅でも、虐待が見過ごされる事がない様、注意し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、権利擁護に関する制度の研修会に参加して、職員会議で資料を配布し、学びを共有し、理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約時、重要事項説明書で、契約内容を十分に説明を行い、利用者、家族の不安を疑問点を尋ねて説明し、ご理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見は管理者や職員に話して頂き外部者へ表せる機会を設けそれらを運営に反映させている。	コロナ禍の為、家族との面会はオンラインによるタブレットを使用した面会やホームの窓越しで短時間の面会を行っている。職員が家族へ電話にて意見・要望を聞き運営に反映させている。3か月毎に広報誌を発行し、入居者が行事に参加した様子などを写真掲載して郵送しており、家族の安心や喜びになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で、職員の意見があればその都度、代表者と話し合っている。	毎月、ユニット合同の全体会議があり、その後ユニット毎の会議にて各職員と意見交換を行っている。職員から、ベットから車イスへの移乗介助の仕方や、クリスマス会の食事内容を提案があるなど具体的な意見が挙がっており、必要に応じて介護サービスへ反映させている。	より職員意見の反映に繋がる環境を整備する為にも、今年度より強化が求められているハラスメント対策について、具体的に取り組むことを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員の有する能力や実績、勤務状況を把握し、職員がいきいきとやりがいや、向上心を持って働ける様職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加や、資格取得への協力を行い、事業所からの推薦や補助金の申請なども行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今は、新型コロナの状況を見ながら、外部の研修や、会議に参加する機会を作り、同業者との交流を増やし、サービスの質を向上させる様取り組んでいる。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、多くの情報を集め、しっかりとアセスメントを行い、本人が困っている事、不安な事に、耳を傾け、本人の安心を確保する為の関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に思っている事や困っている事に耳を傾けながら良い関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後、1か月程は、ゆっくり支援しながら、時間をかけ、必要な支援を見極め、他のサービスを含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持てる能力を導き、一緒に1日を過ごしながら、共に暮らす者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時等、家族との関係を大切にしながら、状況を伝えゆっくりと会話出来るように支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へドライブへ出かけたり、知人友人が面会時 思い出の話をしたりして大切にしてきた場所や人が途切れない様支援に努めています。	コロナ禍前は友人や知人と面会する機会が多くあったが、現在は自粛している。ホームでは感染状況に応じて本人の馴染みの美容室へ行けるよう支援している。職員は家族の電話内容を代弁したり、オンラインで話ができるよう支援している。家族や友人からの手紙や年賀状を手渡したり代読するなど馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人、一人が孤立しない様、関係を把握し、楽しく過ごせる様 支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	必ず言葉かけを行ってから介護にあたり 一人ひとりの思いや暮らしを尊重し利用者の状態を観察し、理解を得る様努力しています。	毎朝、職員は入居者の表情や仕草を観察し思いや意向を汲み取るようにしている。難聴の方には、筆談を用いて思いを汲み取ったり、目が不自由な方には本人の動作を見ながら声掛けし転倒予防に努めている。食事の際には入居者に献立内容を知らせながら美味しく食べてもらえるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、暮らし方、生活環境をご家族から伺い、情報シートに記入して頂き、情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のペースで生活できる様 支援している。又、有する力等、現状の把握に努めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで個々の状態や支援方法を話し合い見直ししている。本人や家族の状況に応じ、支援方法を考え介護計画を作成している。	職員は入居者のモニタリングを行い、生活状況や支援方法を検討して介護計画を半年毎を基本に見直ししている。各ユニットの計画担当職員が入居者の現状に合った介護計画を作成している。介護計画は、入居者の状態変化があった場合は、随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、個人記録を活用し、情報の共有を行い実践や介護計画に反映させ、話し合い支援の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ミーティングの時、支援方法について話し合い個人、家族の状況に応じて対応する様になっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望のかかりつけ医と関係を築き、定期受診、急変時にも対応して頂ける様支援している。	入居者・家族が希望するかかりつけ医を入居後も継続できるよう職員が同行し、受診支援を行っている。遠方の病院を受診する際は家族による受診対応を基本としている。皮膚科は月1回、歯科は毎週訪問診療がある。訪問看護は24時間いつでも相談できる体制である。受診時、職員が入居者のバイタル手帳・メモを持参して適切な医療を受けられるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活で状態の変化や気づきは職員間で報告し、日中、夜間問わず訪問看護師へ相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には安心して治療に専念出来る様、家族・病院と情報交換し、早期に退院出来る様に病院関係者との関係作りに取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、家族は可能な限りホームで過ごしてもらいたいと意向はあるが、かかりつけ医と話し合い、施設で出来る事を理解して頂き、対応・支援に取り組んでいる。	入居の際に、入居者が重度化や終末期に至った場合にホームで出来る事を説明している。重度化に伴い、かかりつけ医、家族、看護師、職員間で話し合い、支援の方針を共有している。入居者が食事が摂れなくなった場合など重度化した場合は、医師の判断のもと協力医療機関へスムーズに入院できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、感染症に対する処置等、勉強会や訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回消防訓練を行い、災害に対応出来る様訓練している。水害時には避難場所にもなっている。	年2回、夜間想定火災消防訓練をユニット本館及び新館と合同で実施している。職員は消防訓練の際、水消火器を用いた実践的な訓練を経験している。有事の際を想定し、地域における第一避難場所として当ホームが指定されており、普段から自治会長や市と連絡を取り、協力関係を築いている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言葉かけには注意して、誇りやプライバシーを損ねない様に対応している。	入居の際に、入居者及び家族へ入居者の権利・グループホームの倫理綱領について説明している。職員が入居者の名前を呼ぶ際は苗字に「さん」を付け、尊厳を持って呼ぶよう努めている。排泄時はトイレのドアを閉め、入居者が用を足したら、職員が鈴を鳴らした上でドアを開けるようにし、プライバシーを損ねない言葉かけに努めている。	入居時に、入居者本人の写真掲載について、家族より口頭で同意を得ているが、トラブルにならないよう書面として残しておくことが望ましい。今年度、職員が参加できていない研修(接遇研修等)を次年度の年間研修(勉強会)計画に組み込むなど、計画的な取り組みを期待したい
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定ができる様、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりの生活ペースに合わせ、その人の思いに寄り添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や入浴時、行事に本人の好みの洋服を選んで、おしゃれが出来る様、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使い、準備や片付けなど、利用者と職員と一緒に、誰もが楽しく食事ができる様にしている。	食事の際は陶器の食器を使用し、職員による手作りの料理を入居者及び職員も一緒に摂りながら、入居者それぞれの嚥下状態に合わせて刻み食やトロミ食などを提供し、美味しく食事が摂れるよう配慮している。誕生会、七夕祭り、クリスマス会、餅つき、正月、雛祭りなど入居者が行事食を楽しめる機会を設けている。。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた食事と、十分な水分補給がとれた状態でおられる様支援する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ひとりひとり口腔ケアをして頂き、口腔内の衛生面に気をつけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツやリハビリパンツの使用を減らし、日中は布パンツとパットを使い、トイレ介助を中心にして、自立に向けた支援をしている。	職員は排泄チェック表により入居者個々の排泄パターンを把握し、本人を誘導にてトイレで排泄ができるよう支援している。入居者は、昼間は布パンツにパットを利用し、職員が排泄のタイミングを心がけて声掛けし、トイレでの排泄を促している。夜間はオムツにパットを着用し、パットの大きさや使用法を工夫している。夜間もタイミングを心がけてポータブルトイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、個別に食前にヨーグルトを提供して、工夫したりして予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調や希望に合わせて入浴して頂き、湯船にゆっくり入って頂ける様支援している。	ユニット新館は週に月水金、ユニット本館は、火木土を基本に入浴を支援している。本館は5年前にリフト浴の整備により浴槽を新しく設置しており、重度化した方でもゆっくりと湯船に浸かれるよう支援している。シャンプー、ボディソープは、入居者が希望する物を使用している。入居者は時季に応じて菖蒲湯や柚子湯を愉しまれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、適度な活動を促し、生活にリズムを作る事で、安眠できる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は職員が把握し、いつでも確認できるファイルに保管し、変更があった時には情報共有し服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喜びや張り合いのある日々を過ごして頂く様一人ひとりの力を活かしたお手伝いをして頂き、役割を持たれる事が活力につながる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い時は、外庭での外気浴や散歩、ドライブなど支援している。	コロナ禍の影響により外出制限を実施しているが、天候の良い日などを見計らい、コスモス見学や、雲仙の紅葉を見にドライブで出かけ外出支援に努めている。日常的には、庭の桜の花見や、庭先を散歩し日光浴をして気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、買い物やお金を所持したり、使える様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に電話したり、ハガキを出されたりされる様、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や廊下の壁に季節感のある飾りや花を置いたりしている。利用者にとって、不快や混乱を招くような、刺激がないよう、プライバシーを損なわない様配慮している。	リビングは明るく、季節感がある壁飾りを掲示したり、廊下に入居者の集合写真や、小学生が訪問した際の集合写真を掲示しており、入居者が楽しめている表情や様子が窺える。ホーム内は定期的に窓を開け換気を行い、職員が毎日の清掃実施と週1回の消毒液による拭き掃除を行い、衛生面に配慮しており、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では、気の合った者同士が、思い思い過ごせる様、席の配置を工夫したり、テレビの前を広くし、集まりやすい空間となる様している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、馴染みのあるものを持ってきて頂き、本人様の状況によりベッド、タンスの位置にも配慮している。	居室の表札はドアのノブに掛け、本人の居室であることが分かりやすいよう見当識に配慮している。居室には、テレビ、整理筆筒、冷蔵庫、置時計など本人の馴染みの手回り品等が持ち込まれ、思いおみの部屋作りを支援している。クローゼットを整備して整理整頓もできている。居室は、職員が日々の清掃実施と週1回の消毒液による拭き掃除を行い、衛生面に配慮し、入居者が居心地よく過ごせるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室が分かる様に大きな字で表示している。食堂、居室には不要な物は置かない様にして危険防止に努めている。		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 あざみの里 新館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目に付く所に掲示して、時間をかけて見守り、声かけて付き添う。という理念を意識して実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内清掃に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	基本は地域に根差したいつでも立ち寄れる開かれた施設づくりを目指しているが、コロナウイルスの影響で、ここ数年は見合わせている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。コロナの蔓延時は、書面のみで済ませている時もあるが、意見や評価を頂き、今後の対応やサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者に、日頃から連絡して、相談したり、協力関係を築くよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、リモートでの研修と、施設での勉強会を3か月に1回している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を基に、職員会議などで話し合い、虐待が見過ごされることがないように、注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で学ぶ機会を持ち、対象者には、必要な支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、利用者や家族に説明を十分に行って、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会がコロナ対策で出来ない為、電話で連絡を取り、意見や要望を伺い、その都度対応して、運営に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働ける様、環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員が研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングをしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で研修会などが無い為、同業者とはリモートで交流を持ったり、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に、本人の困っている事、要望等を聴き、本人の安心できる関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に、家族の困っている事や、不安なこと、要望等を聴きながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用の際、本人と家族が「その時」必要としている支援を見極め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に役割を持って頂き、手伝ってもらったり、支え合いながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人と家族のきずなを大切にして、共に本人を支えていくように関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で、原則面会を控えて頂いているが、テレビ電話などを活用しながら、支援に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わり合い、楽しく過ごしながら、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、本人や家族の経過を聞いたりしながら、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望、意向の把握に努め、職員間で共有し、本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴や暮らし方、生活環境など本人や家族に聞きながら、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一日の過ごし方、心身状態など現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞き、担当者会議で意見やアイデアを出し合い、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別に日々の様子を記録して、職員間で送り帳を活用したり、ミーティングなどで情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じた柔軟な支援が出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で地域の行事などが無いので、回覧板や市政だより等で、楽しむことが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望のかかりつけ医に定期的受診し、適切な医療を受けられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の事を訪問看護師に日頃から相談し、利用者が適切な受診や看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院された場合は、病院関係者と情報交換や相談に努めながら早期に退院できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したり、終末期について、家族や医療機関と話し合いながら、方針を共有し、支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナの影響で消防署立ち合いの訓練ができない時も、職員は応急手当や心肺蘇生法など、訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練を定期的に行い、地域の方の参加型の訓練はコロナ禍で出来ていないが、対策に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者が思いや希望を表したり、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースで、どのように過ごしたいか、希望を大切にして支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい好みの身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に、野菜の皮むきなど一緒に準備を行ったり、食事と一緒に頂き、片付けもできることをそれぞれして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態の合わせ、食事量、水分量をチェックし、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の口腔状態を把握して、毎食後、一部介助を行ったりしながら、口腔内の清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄の失敗を減らせる様に、排泄の間隔やパターンなど把握して、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量に気を付けたり、運動などで、便秘解消に向けた取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望やタイミングに合わせて、利用者が入浴を楽しめるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調の調整に気を付けたり、体のかゆみの訴えがある時は、薬塗布したり、安眠に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	りょうしゃの薬の目的や副作用など理解に努め、薬は手渡して確実に服用される様見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が楽しく過ごせるように、気分転換や散歩、レクリエーション、ドライブなどの支援をしている。またお手伝いをしてもらい役割を持って生きがいを持って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、家族や地域の方々に協力は求められないが、職員が利用者の希望にそって、ドライブや散歩など支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる利用者は、自分で所持して使えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話したり、手紙を書いたり、テレビ電話をしたりできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節感のある飾りつけをして、利用者が居心地よく楽しめるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで気の合った利用者同士で過ごせたり、独りで外を眺めたり、思い思いの時間を過ごせる様支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に馴染みのものを持ってきて頂き、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や、トイレの目印など行い、安全で自立した生活が送れるよう工夫している、		